

セントラルケンタッキー日本人補習校 令和6年(2024)3月2日

CKJSだより

第81号

校長 松平 昭二

shoji_matsudaira@hotmail.co.jp

思い切って任せる

中学3年のK君は、聡明な子でした。2学期になると「みんなで高校に合格しよう」という合言葉で、放課後に教え合い学習をやることを学年委員会で決めました。K君も学級委員で、遅れている子を教える側の一人です。

ところが、教え合い学習の日と塾の日がかち合っています。K君は悩み、お母さんに相談しました。「あなたが一番正しいと思うことをやればいいじゃないの」これがお母さんの答えです。「人のためにやることだから進んでやりなさい」とか、「そんな余計なことを引き受けて、あなたの勉強遅れてしまうわよ」というより、ずっと素晴らしい答えだと思います。

K君は自分の判断で塾をやめました。やがて始まった教え合い学習の中では、誰よりも熱心に教えているK君の姿がありました。そして彼は、見事に第一希望の高校に合格しました。

子どもは「信じて任せてくれる」ことが非常にうれしいのです。小・中学時代の子育ての中で、この「任せる」ということは、極めて大きな意味をもっています。やることをすぐ指示するのではなく、「いついつまでにやっておいて」というような頼み方にすることも大切なのです。



それは、一定の範囲のことを能動性と主体性で首尾よくやれる、ということの意味します。つまり、任せられたことに関しては完全に自分が主人公になる、ということです。これは、人間にとって本質的な喜びであり、人間らしい生き方の要をなすものなのです。